

## ～ 【 Challenge & Change 】 ～

「1月一時、2月は逃げる、3月は去る。」の例えどおり、3学期はあっという間に過ぎた感がありました。4月もそれに負けず劣らず瞬く間に最終週を迎えました。

先週、体育大会の結団式を終え、今週から学年毎の早朝練習が始まりました。

昨日は朝練の初日とあって、私もグラウンドの様子を見に行きました。初日の割り当ては2年生と3年生でした。



2年生は学年種目の「背渡し」(タイトルは検討中です。)、3年生は早速クラス対抗全員リレーの練習をしていました。

1年前に比べ3年生は体格がグッと大きくなり、走りもずいぶんダイナミックなものになっていました。中学校、特に中学2年生の1年間の成長は著しいものだと痛感しました。

教育とは、一人の人間がより複雑さを増し、別人に変容していく手助けをするものだと何かの本で読んだ記憶があります。確かに、入学時と卒業時では、時には別人になったようだとと言われるくらいに成長し、変容してしまうものが中学校時代だと思います。

小学校の時はわんぱくで、先生から叱られてばかりの生徒が、中学生になって、試験の順位を上げるために夢中になって勉強し、卒業する時は学年のトップクラスになっていました。

また小学生の頃は運動が苦手で体育の時間は休みがらだった生徒が、中学校になってソフトテニスと出会い、日々練習を休まず、部活に打ち込み、3年生の中体連では熊本市の代表選手となり、県中体連に出場しました。

小学校の時はおとなしく人前で話すことなんて絶対できなかった生徒が、ふとしたきっかけで学級委員となり、2年生の後期から生徒会長となって学校全体をリードできるようになりました。

教職員生活を30年以上やっていると、こうした例は枚挙にいとまがありません。中学校3年間は本当に自分を変えるチャンスなのです。

それではどういうきっかけで子ども達は自分を変えようと、変わろうとするのでしょうか。

それは家庭にはなく、学校にだけある「特質」が関係しています。

複雑なことではありません。極々単純なことです。それは、学校は「家族以外の他者と目標を共有し、これに向けて活動する中で、喜怒哀楽等様々な感情を経験することができる場」であるということです。

友達と一つの目標を追い求め、その中でたくさんの感動を経験できるのは学校だけです。家庭でも、そして大人になって就職する会社でも無理だと思います。

だからこそ体育大会に「ハマって」欲しいのです。優勝目指し、担任の先生を中心にああでもない、こうでもない試行錯誤しながら、時には隣のクラスの状況を「偵察」しながら作戦を立てる。また自分たちの作戦が他クラスにばれないようにいろいろ工夫する。

そして体育大会本番。担任とクラスの生徒の心が一つになり頑張れば頑張るほど、結果が優勝でもなんでも、「やってよかった！」という大きな感動が待っています。

こうした感動経験をたくさん繰り返す中で、新たな自分に気づき、変わり始めようとする生徒が出てくるのです。

今年の生徒会活動のテーマは「Challenge & Change」です。挑戦して変革を起こしてほしいのは鹿南中の「文化」「空気」だけではありません。是非とも「自己改革」のチャンスにしてほしいものです。そういう意味でも、体育大会には大きな期待を寄せています。

## ～ 【 部活動の勧め 】 ～

他者と目標を共有し、共に頑張る中でたくさんの感動経験をすることができるのは、学校行事だけではありません。いやむしろ学校行事よりもたくさんの感動経験が待っているかもしれません。それは部活動です。

鹿南中にはたくさんの部活動があり、3年生、2年生が頑張っています。



昨年度は弓道部が団体戦・個人戦のダブルで全国優勝を果たしました。もちろん他の部活も1勝でも2勝でも、と頑張っています。

1年生の皆さん、是非、部活動に入って皆さんの感動を経験してほしいと思います。今まで気づかなかった新たな自分との出会いがきっと待っていると

思います。